

横田、C-130の70周年を祝う *Yokota celebrates 70 years of C-130 operations*

August 28, 2024

By Airman 1st Class David S. Calcote
374th Airlift Wing Public Affairs

耐久性、機敏性、信頼性を誇るC-130は、過去70年にわたり国際的な戦術空輸作戦の中心として、航空優勢と支配力、実効性を支えてきた。第36空輸中隊と航空自衛隊小松基地第401飛行隊は8月23日、横田基地上空を飛行してC-130の歴史を称え、その初飛行から70周年を祝った。

朝鮮戦争後、米空軍戦術航空軍団が中型貨物輸送機の必要性に着目し、C-130の開発が始まった。1954年8月23日に初飛行に成功して以来、C-130は7大陸すべてで飛行し、70カ国以上で運用されてきた。

第374空輸航空団史料部長レスリー・ジョーンズ氏は、C-130について次のように述べた。「C-130は、大型で機敏性があり、不整地にも貨物を輸送できるという空軍のニーズを満たしている。1960年代に導入して以来、C-130は当航空団に安定性ももたらしてきた。C-130なしに、当航空団は存在しなかったかもしれない」。

70年前の試作機の成功以来、C-130は世界中の軍事基地でそのレガシーとコミュニティを築き上げてきた。この航空機は300万時間近い飛行時間を記録し、その比類のない汎用性が高く評価されている。

第374空輸航空団監査部長サム・ビンセント大尉は、「C-130は、どんな環境でも、どんな条件下でも、効率的に運用できる」と説明し、「この航空機は、要求されるあらゆる任務をこなすことができ、米国だけでなく、世界各国で使われている。それはこの航空機の価値の高さを表している」と続けた。

C-130のレガシーは、長年にわたって関わった多くの人々のコミュニティ的な側面にも表れている。

「祖父、父、母、娘、息子、そして孫、皆がこの航空機に乗ってきた。この機体がいかに長い間運用され、任務を達成する能力があるかを示す証だ」とビンセント大尉は話す。

横田基地は、C-130の能力を活用して地域の安定と安全を強化し、パートナーシップを深め、自由と開放性を守るという共通のビジョンの実現に取り組んでいる。

